

Contents

はじめに	2
------	---

第1章

第二言語を「知っている」ことと「できる」こと 9

本章のポイント	10	Key Word	10
1.1 「知っている」から「できる」へいかに転化するか	11		
1.2 ふたつの課題	20		
1.3 課題(1): インプットの量と質	21		
1.4 課題(2): 学習システムの活性化	32		
1.5 本書でお話すること	33		
1.6 英語学習ウソ・ホント	36		
英語学習のウソ・ホント [1回目]	38		

本章のまとめ	40
さらに調べてみたい読者に: 関連図書紹介	41

第2章

「顕在記憶」・「潜在記憶」とその形成: 認知心理学・神経科学は何を明らかにしているか 43

本章のポイント	44	Key Word	44
2.1 長期記憶の分類: 顕在記憶と潜在記憶	45		
2.2 顕在記憶(宣言記憶)の種類	47		
2.3 潜在記憶(非宣言記憶)の種類	48		
2.4 顕在記憶と潜在記憶の関係	56		
2.5 エピソード記憶から意味記憶への転換	58		
2.6 ニューロンの構造と情報伝達	62		

2.7 脳の仕組み: 全体像	65
2.8 大脳皮質とその機能	69
2.9 脳と記憶: 記憶に係る脳	79
2.9.1 意味記憶の形成と保持: 海馬の役割	79
2.9.2 手続き記憶の形成と保持: 大脳新皮質および大脳基底核・小脳の役割	85
2.9.3 前頭連合野とワーキングメモリ	89
2.9.4 インプットから新たな顕在記憶形成: まとめ	93

本章のまとめ	97
さらに調べてみたい読者に: 関連図書紹介	98

第3章

自動化・運動理論・ミラーニューロンと シャドーイング・音読 99

本章のポイント	100	Key Word	100
3.1 記憶からみた母語(第一言語)と第二言語	101		
3.2 第二言語習得における自動化: 神経科学の成果を踏まえて	105		
3.3 第二言語における語彙処理プロセス: バイリンガル語彙処理モデル	121		
3.4 シャドーイング・音読の効果	134		
3.5 音声知覚の運動理論	136		
3.6 ミラーニューロンと模倣	146		
3.6.1 ミラーニューロンの発見	146		
3.6.2 模倣について	150		
3.7 ミラーニューロンの機能	152		
3.7.1 共感	153		
3.7.2 言語	155		
3.7.3 自閉症	157		

3.8 シャドーイングの効果とミラーニューロン 159

本章のまとめ.....162

さらに調べてみたい読者に：関連図書紹介.....163

第4章

**シャドーイング・音読の効果：
実証データが明らかにしていること** 165

本章のポイント.....166 Key Word.....166

4.1 英語の学習・教育におけるシャドーイングの効果：実証研究の成果 167

4.1.1 シャドーイングの繰り返しによる効果：
再生率は何回目くらいまで上昇するか 167

4.1.2 シャドーイングの繰り返しにより、学習者の調音スピードは向上するか 171

4.1.3 シャドーイングの繰り返しにより発話のピッチ幅は広がるか 179

4.1.4 シャドーイングにより学習項目の内在化はどのようにして生じるか 182

4.1.5 シャドーイングとリピーティングはどう違うのか 186

4.1.6 シャドーイングの効果に関する縦断的研究の成果 191

4.1.7 ボトムアップ・シャドーイングと
トップダウン・シャドーイングの効果は異なるか 196

4.1.8 外国語としての日本語学習における
シャドーイングの効果はどのようなものか 200

4.2 英語学習・教育における音読の効果：実証研究の成果 209

4.2.1 文字と音声を結びつける音読 210

4.2.2 学習項目を内在化する音読 224

4.2.3 シャドーイングと音読をプラスするとその効果はどうなるか 233

4.3 今後必要なりサーチはどのようなものか 238

本章のまとめ.....242

さらに調べてみたい読者に：関連図書紹介.....244

第5章

**プライミングとフォーミュラ連鎖：第二言語の
アウトプットを支えるシャドーイング・音読** 245

本章のポイント.....246 Key Word.....246

5.1 第二言語におけるインプットとアウトプットの関係 247

5.2 スピーキングのメカニズム 250

5.2.1 スピーチチェーン 250

5.2.2 第二言語における発話産出のプロセス 251

5.3 プライミングが支える第二言語の処理と習得 255

5.3.1 第二言語におけるスピーキングを可能にする3つのプロセス 255

5.3.2 プライミングとは何か 257

5.3.3 文構造の潜在学習を支える統語プライミング 261

5.3.4 シャドーイング・音読の効果とプライミング 270

5.4 流暢な言語運用を演出するフォーミュラ連鎖 272

5.4.1 フォーミュラ連鎖の定義と分類 272

5.4.2 フォーミュラ連鎖の理解：研究成果 275

5.4.3 フォーミュラ連鎖の習得：研究成果 279

5.4.4 フォーミュラ連鎖を用いた第一・第二言語の処理モデル 283

5.5 インプットとアウトプットとつなぐ
トレーニングとしてのシャドーイング・音読 288

5.5.1 スピーキングと内的リハーサルの関係 288

5.5.2 外的リハーサルと内的リハーサル 292

5.5.3 インプットとアウトプットをつなぐシャドーイング・音読トレーニング 293

本章のまとめ.....298